④ 取材の編集

取材した内容をまとめカード化してみた。さらに取材時の感想を書き，自ら調べたり集めたりした資料等をまとめるようにした。それらを模造紙2枚に編集することにした。

ア 取材記事のカード化

タイトル

取材した人
（住 所）
（氏 名）（年 齢）

インタビューの内容
インタビュー時の様子
等

心情の把握等

日時
取材者

車イスに乗る人

舘岩村 井桁 （体全体）
H・Tさん 78歳

昭和61年2月27日，田島に出掛けたところ，急に体の調子が悪くなり倒れてしまった。そのまま若松のT病院に8カ月入院した。その間，毎日奥さんが付き添った。Tさんは体の半分がきかなくなりご飯も食べられない，トイレにもいけない状態になってしまった。

「とても大変だけど，身内だからくじけないでがんばる。」と涙を流して語ってくれた奥さん！私達は，その奥さんの大変さがはっきりわかりました。奥さんの苦労に感動し，思わず涙がこぼれました。

Tさん，長生きしてください。
奥さん，しっかり頑張って下さい！
8月1日（月） K・M

イ 取材時の感想文

手足の不自由な人を見舞って
S・N

私達は，身体の不自由な人のお話を聞こうと病院に行ってきました。

いろいろな病気で，手や足が動かなくなった人が思っていた以上に多くいて，とてもかわいそうだと思いました。中には，人工の骨をせっかく手術してはめられたのに，骨をくっつけた石膏がぼろぼろになってしまい，また手術しなければならない人もいました。取材したことによって，体の不自由な人の苦しみなどを少しはわかったような気がします。私は，少しでもそんな人の役に立ちたいと思いました。

体の不自由な人について
K・M

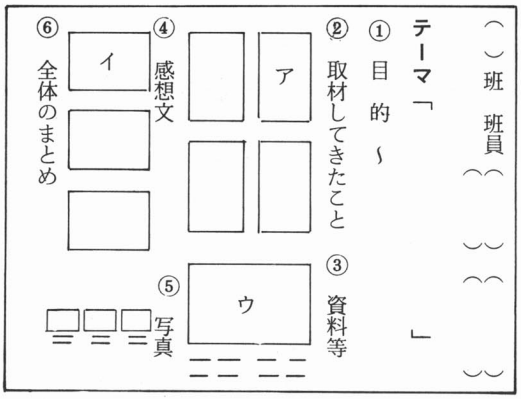
私は，体が不自由なことは本当に大変なことだと思います。私は，もし，体が不自由な人を見たら……とか，いろいろな考えます。舘岩村にも，体の不自由な人は たくさんいます。私は，グループ活動で田島県立病院へ行ってきました。病院には，やっぱりいろいろな体の人がいました。病院の小さい頃からということは，嫌だと思いました。病院の見学が終わってから，お昼ご飯を病院でもらいました。さすがに病院だけではありません。栄養のバランスがよいものばかりでした。行ったのは，病院のこの舘岩村にも，インタビューに行きました。とてもかわいそうでした。私達だって，大人になったら，体が不自由になるかもしれないのだと思いました。

ウ 資料（取材以外で調べたもの）の収集

村の図書館・公民館等に行き，テーマに合った資料を収集してみるよう指示した。

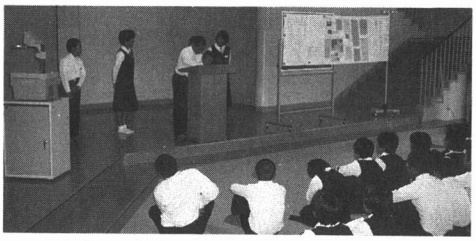
- 新聞等から資料を切り抜いてきたり，資料作りを行った班もあった。
- 次年度での資料の選定に役立つものが集まった。

エ 模造紙に編集



(3) 発表・掲示

発表は，創意の時間の中の学級の時間等を利用して，取材してきたことを発表し，感想を一人ずつ述べさせた。調べてきたことに対する質問やテーマに基づいた話し合いの場も設けた。編集した模造紙は，学級に掲示した。



(4) 生徒の変容

＜道徳の時間＞	＜体験後の話し合い＞
(初発)かわいそう～（ほとんどの生徒） (事後)思いやりをもって接したい	・同情の目で見る思いやりではなく，自分の身におきかえて接するべきだ。 ・身体の不自由な人がいたら，嫌がったりせず手助けできることは手助けしたい ～（1／3の生徒）

3. おわりに

実際に目にしたり聞いたりすることは，やはり生徒の心に直接響くものであり，より高い価値観に変容させることができた。生徒は，福祉問題や自然破壊の問題等をより違った目でみるようになった。何より，自ら調べ問題意識をもちえたことがうれしい。もちろん，すぐに道徳的実践につながっていくことは望めないとしても，グループ全員で一緒になって考えたことが，心のどこかにとどまってくれれば幸いである。今後も，道徳性を高める体験の場を明確に位置づけていきたい。